



大阪府立大学
中国語ポッドキャスト
旅行会話編
補充教材



清原文代

はじめにお読みください！

この本の成り立ち

この本は平成18年度大阪府立大学総合教育研究機構プロジェクト型研究費を得て制作された清原文代・顧春芳『大阪府立大学中国語ポッドキャスト旅行会話編』の補充教材として作られたブログを加工したものです。

清原文代「[大阪府立大学中国語講座](#)」（補充教材のブログ、「[教材内容について](#)」という部分がこの本の元になった部分です）

近年の中国の変化は激しく、記述の中には現状とは合わないものもありますが、内容は執筆当時のままになっています。

ポッドキャストでは現在でも音声（MP3）とPDF（中国語簡体字+pinyin+日本語訳+文法解説）を配信しています。詳しくは以下をご覧ください。

[大阪府立大学中国語ポッドキャスト旅行会話編](#)

[大阪府立大学中国語ポッドキャスト旅行会話編をiTunesで見る](#)

なお、音声の吹き込みを担当されたのは以下の方々です。

中国語女声：顧春芳（大阪府立大学総合教育研究機構教授）

中国語男声：張新民（大阪市立大学大学院文学研究科准教授）

日本語女声：船本弥生（ナレーター）

日本語男声：本多信男（舞台俳優）

ご注意&制限事項

1. PDFについては中国語（簡体字）の一部が□になっています。これは恐らくパプーの仕様の問題です。~~EPUBではこの問題はありませんのでEPUBをご覧ください。~~その後、パプーのPDF出力が改善されたようで、現在ではPDFも中国語（簡体字）も欠けずに出力されています。但し、中国語のフォントは揃っていません。
2. 各回の末尾にはポッドキャストで配信しているPDF教材（本文の中国語+pinyin+日本語訳、及び文法解説）へのリンクと音声ファイル（MP3）へのリンクがあります。**PDFとMP3**はどちらもインターネット上にあり、閲覧や再生にはインターネット接続が必要です。ご注意ください。
3. iPhoneやiPadのiBooksでEPUBを読む場合、音声（MP3）へのリンクは有効です。但し、一旦iBooksを閉じて、Safariで音声を再生することになります。誌面に戻るにはもう一度iBooksのアイコンをタップします。iBooksはどこまで読んだか記憶しているので、読んで

いたページに戻れます。

4. iPhoneやiPadのiBooksではEPUBを読む場合、ネット上にあるPDFへのリンクは無効です。
~~それはなぜだかよくわかりません。~~その後のiBooksのアップデートでPDFへのリンクも有効になりました。文法説明など主な部分はPDFに書いてありますので、ぜひご覧ください。
なお、PDFへのリンクも音声と同様に一旦iBooksを閉じてSafariで開くことになります。
5. パソコンでEPUBを読む場合、インターネット上へのリンクが有効かどうかはソフトウェアによります。

例えば[calibre](#)ではMP3へのリンクもPDFへのリンクも有効です。但しリンクはWebブラウザに引き継がれますので、別にWebブラウザのウィンドウが開いて、MP3の再生やPDFの閲覧をすることになります。

[Firefox](#)をお使いの方は[EPUBReader](#)というアドオンを使うと、一つのウィンドウの中でタブを切り替える形でEPUBと音声（MP3）を開けます。リンクからPDF教材をダウンロードすることもできます。

この本の著者について

清原文代（きよはら ふみよ）

1960年代に大阪に生まれる。大阪市立大学大学院文学研究科後期博士課程中国文学専攻単位取得退学（要は博士号を持ってませんということです）。現在は大阪府立大学総合教育研究機構准教授。主に1～2年生の中国語教育を担当してます。

[ホームページ](#)（忙しくて更新してません、すみません）

[大学のWebサイトに載せている自己紹介](#)

近著は『[リズムで学ぶ三文字中国語](#)』（アルク 2007年）です。iPod、iPhone、iPadで使える音声とアニメが入ったCD-ROM付きです。iPod、iPhone、iPadをお持ちでない方も[iTunes](#)をインストール済みであれば、パソコンでもOKです。

アニメは全部で50個、週に1つずつ[アルク社のWebページ](#)で見られます。但し、これはWeb公開用に相当音質を下げてあります。商品ではもっと良い音ですのでご安心を。本来の音質がどのようなもの確認したい方は許可をとって私が[YouTubeにあげてあるサンプル](#)（1つのアニメの3分の2だけ）をご覧ください。3文字と短いけれども使える中国語のフレーズが、リズムとともにあなたの頭の中をぐるぐる回って離れなくなります！

Amazonでは、クリックなか見！検索で本を少し立ち読みできます。ご覧になりたい方はAmazonの『[リズムで学ぶ三文字中国語](#)』の[ページ](#)へどうぞ。

Webページ上で音声を聞きながら本文を見るには

パソコンをお使いの方は以下のWebページで本文を見ながら音声を聞けます。

音声はFlashを使ったプレイヤーで再生します。

清原文代・顧春芳『大阪府立大学中国語ポッドキャスト旅行会話編』の本文

[中国語（簡体字）＋日本語訳＋音声](#)

[中国語（pinyin）＋音声](#)

iPhoneやiPadで上記のWebページを見ると、Flashを使ったプレイヤーの部分は表示されませんが、[Download] と書いてある部分をクリックすると音声のあるところへジャンプします。

第1回補足：大学の学年

教材の中では二年级（2年生）というふうに大学の学年を言っていましたが、大学生特有の学年の言い方としては以下のような言い方があります。

我是大二的学生。

Wǒ shì dà èr de xuésheng.

（私は大学2年の学生です）

入学年度は～級と言います。

07级

líng qī jí

（2007年度入学）

また新入生のことは

新生

xīnshēng

と言います。これは大学に限らず使います。

[PDF教材を見る](#)

[本文の音声を聞く](#)

第2回補足：空港関連用語

空港や飛行機に関連する用語を補足しておきましょう。

机票

jīpiào

（飛行機のチケット）

订机票

dìng jīpiào

（飛行機のチケットを予約する）

我想订25号去北京的机票。

Wǒ xiǎng dìng èrshiwǔ hào qù Běijīng de jīpiào.

（25日北京行きの飛行機のチケットを予約したいです）

退票

tuìpiào

（チケットをキャンセルする）

#これは飛行機のチケットに限らず使えます。

我要退票。

Wǒ yào tuìpiào.

（私はチケットをキャンセルしたいです）

头等舱

tóuděngcāng

（ファーストクラス）

商务舱

shāngwùcāng

（ビジネスクラス）

经济舱

jīngjìcāng

（エコノミークラス）

靠通道的座位

kào tōngdào de zuòwèi

（通路側の席）

靠窗的座位

kào chuāng de zuòwèi

（窓側の席）

托运行李

tuōyùn xínglǐ

（荷物を預ける、荷物を託送する）

登机

dēngjī

（搭乗する）

登机牌

dēngjīpái

（搭乗券、ボーディングパス）

登机口

dēngjīkǒu

（搭乗口）

空姐

kōngjiě

（スチュワーデス）

これは空中小姐の略です。

飞机晚点

fēijī wǎndiǎn

（飛行機が定刻より遅れる）

转机

zhuǎnjī

（飛行機を乗り継ぐ、トランジット）

この単語には文字通り「転機」という意味もありますが、空港で使う場合はトランジットの意味ですね。

入境

rùjìng

（入国する）

出境

chūjìng

（出国する）

海关

hǎiguān

(税関)

班车

bānchē

(リムジンバス)

[PDF教材を見る](#)

[本文の音声を聞く](#)

第3回補足：読み方を尋ねる、2つの「読む」

第3回のテーマは意味を尋ねるでした。

ポイントとなる文は、

～～是什么意思？

～～shì shénme yìsi?

（～～はどういう意味ですか）

ですが、日本語話者の場合、意味がわかっているにもかかわらず発音がわからないということがよくあります。そんな時はこう聞けばよいでしょう。

这个字怎么念？

Zhèige zì zěnmē niàn?

（この字はどう読みますか）

念niànは読むは読むでも、声に出して読むという意味ですから、この文は字の発音を尋ねていることになります。

では声に出さずに目で読むことはどのようなのでしょうか？

それは、看kànです。

看kànは視覚を代表する動詞で「見る」と「読む」両方の意味があります。

（例）看电视 kàn diànshì

（テレビを見る）

（例）看书 kàn shū

（本を読む）

[PDF教材を見る](#)

[本文の音声を聞く](#)

第4回補足：相手の言うことがわからない時、漢字の功罪

第4回のテーマは相手の言うことが聞き取れない時です。

まずはもう一度繰り返してもらいましょう。

それは今回の教材に出てきましたね。

请再说一遍。

Q ĭ ng zài shuō yí biàn.

（もう一度言ってください）

後の回で出てくるのですが、ゆっくり言って欲しいときはこう言います。

请慢点儿说。

Q ĭ ng màn di ǎ nr shuō.

（ゆっくり言ってください）

それでもダメなら筆談に持ち込みましょう。これは今回の教材に出てきましたね。

请给我写一下。

Q ĭ ng gěi w ō xiě yíxià.

（ちょっと書いて下さい）

ただ、こういうとちょっと怪訝な顔をされることがあります。それは「この外国人、聞いてもわからないのに漢字で書いてわかるかな？」と思われているのかもしれませんが。

わたしたちが子供の頃どのように言葉を憶えてきたかを考えてみましょう。

まず聞いて意味がわかるようになる→聞いたものをまねして話す→文字を読めるようになる→文字を使って文章を書けるようになるといった具合に進んできたと思います。その順番から考えれば、「聞いてわからないのに、書いてわかるのかな？」とちょっと変な顔をされるのはもっともなことかもしれません。特に漢字は数が多い上に複雑な文字ですから。

そういう時は、

日本人也用汉字。

Rìběnrén yě yòng Hànzì.

（日本人も漢字を使います）

と言ってみるのもよいでしょう。

日本と中国では漢字の字体は違うものの、漢字を知っているということは中国語を学ぶ上において大きな利点です。と同時に漢字に頼りすぎてしまって、音声言語としての中国語を軽視してしまう、つまり漢字で意味がわかったと安心してしまって、聞き取れるようになるまで話せるようになるまで練習するのを怠ってしまうという危険性もありますので、注意しましょう。

[PDF教材を見る](#)

[本文の音声を聞く](#)

第5回補足：サインとハンコ

第5回の教材はトラベラーズチェックを現金に両替するシーンでした。

トラベラーズチェックを現金化するには、その場でサインする必要があります。

「サインをする」は中国語で以下のように言います。

签字 qiānzì

签名 qiānmíng

書類や契約書に同意する際のサインの場合はどちらも使いますが、芸能人のサインの場合は签名 qiānmíng です。

日本では何かあると印鑑を押すことを求められます。「押印する」ことは中国語では、盖章 gàizhāng と言います。印鑑のことは、图章 túzhāng と言います。

中国では個人が書類や契約書を書くときには普通はサインだけで、押印を求められることはありません。私が中国で銀行口座を開いた時もサインだけでした（銀行口座を開くことは开户头 kāi hùtóu と言います）。

では印鑑は全く使わないのかと言えばそうではなくて、役所、学校、会社などが出す証明書の類にはちゃんとその機関の公印が押してあります。

[PDF教材を見る](#)

[本文の音声を聞く](#)

第6回補足：わざわざ

第6回の教材に、
谢谢您特地来接我。

Xièxie nín tèdì lái jiē wǒ .

（わざわざ私を迎えに来てくださってありがとうございます）
という文があります。

“特地”tèdìは「わざわざ」という意味ですが、この文では日本語を母語とする人にとっては違和感はないと思いますが、自分の家を尋ねてきた中国人の友人が
我特地来看你。

Wǒ tèdì lái kàn nǐ .

と言ったとしたらどうでしょう？

“看”は視覚を代表する動詞で「見る」「読む」といった意味があり、さらに人の様子を見る→人に会うという意味にもなります。

この文は直訳すれば「私はあなたにわざわざ会いに来ました」となり、日本語話者にとってはいささか恩着せがましく聞こえてしまいましたが、これはその人に会うためだけに私はやってきたのだ、その人を中心にすえてその人のために私は行動しているのだという、相手を尊重する気持ちの表れだと思います。

日本語を母語とする人はこういう場合は「ちょっとついでに会いに来たよ」と言うかもしれません。実際のところはその人に会うためにだけ来ていても、そうやってしまうと相手にかかる心理的負担が重くなってしまうのではないかと気遣っているのでしょう。

日本語話者の感覚で、
我顺便来看你。

Wǒ shùnbìan lái kàn nǐ .

（私はついでにあなたに会いに来ました）

と中国人の友人に言うと、「私はこの人にとって『ついで』の存在なのか」と思われて、気遣いが裏目に出てしまうかもしれませんね。

[PDF教材を見る](#)

[本文の音声を聞く](#)

第7回補足：教材の中のリンク、中国のホテル

毎回ではありませんが、ポッドキャストで配信しているプリント教材（PDF）の中に、教材内容と関連のある参考Webページへのリンクを作っています。

PDFの良いところは、紙の再現を意図したフォーマットで印刷に向くことと、そしてWebページへのリンクを貼れるなどデジタルデータならではの良さもあります。それを生かさない手はないと思って、Webページへのリンクを作っているのですが、これがなかなかたいへんです。

教材の著者は個人ですが、大学教員という肩書きを持っていること、そして教材名の中に大学名が入っていますから、なるべく公的な性格を持つところを探して紹介するように気をつけています。それでもリンク先の内容が100%正しいと保証することはできませんので、その点はどうぞご了承くださいますように。

ただ第7回については、悩んだ末に一企業のサイトを紹介しました。中国のホテルのWebページがどんなものか見ていただきたかったですし、宿泊料の相場も紹介したかったです。

教材に出てきた北京飯店は北京の王府井という、日本で言えば銀座に当たるような繁華街の入り口に建っている老舗ホテルです。

携程旅行网はネットで中国のホテルの予約ができるサイトです。こういったネットを通じたホテル予約サービスは他にもありますが、とりあえず1つだけ紹介しました。

ただ紹介した企業のサービスの利用を推奨するわけでも、そのサービスの質を保証できるわけでもありませんので、教材に書いてあるような注意書きを書いたわけです。

中国のホテルには星によるランク付けがあります。最高ランクは五星级w ŭ xīngjí（5つ星）です。初めて中国に行かれるのであれば、そうですね、最低でも三星级sān xīngjí（3つ星）以上のところをお勧めします。ただ、三星级だと英語や日本語のできる従業員はいない可能性が高いので、学んできた中国語を実践する機会ととらえて頑張るもよし、また少しでも不安であれば四星级sì xīngjí（4つ星）以上になさるとよいでしょう。4つ星以上なら日本語はだめでも英語が話せる従業員はたぶんいるだろうと思います。その分お値段も高くなりますが。

そんな時に役立つ中国語を紹介しておきましょう。

这儿有会说日语的人吗？

Zhèr yǒu huì shuō Rìyǔ de rén ma？

（ここに日本語を話せる人はいますか）

这儿有会说英语的人吗？

Zhèr yǒu huì shuō Yīngyǔ de rén ma？

(ここに英語を話せる人はいますか)

中国経済の発展に伴い、ビジネスで移動する人々も増えています。私は泊まったことはありませんが、日本でも出張族におなじみのビジネスホテルが中国でもできてきていて、チェーン展開もしているそうです。

柳田洋『中国ビジネスのすすめ』第586回「[中国のビジネスホテル](#)」

[PDF教材を見る](#)

[本文の音声を聞く](#)

第8回補足：名前の発音

第8回では名前を尋ねる、名前を名乗るというシーンが出てきます。教材では鈴木さんは自分の名前をLíngmùと中国の音で読んで名乗っています。

中国語を教えだした当時は何も考えずに学生さんにも自分の名前の中国語読みの練習をさせていたのですが、今では練習をする前に以下のように断ってから練習を始めています。

名前というのはアイデンティティの一部です。自分の名前をどう読むか、どう書くかは皆さん自身が決めて下さい。自分の名前を中国語の音で読み、簡体字で書くのもよいし、中国語を話す時も自分の名前は日本語で読み、日本語の漢字で書くのでもかまいません。ただ、中国の人は日本語を習っていれば別ですが、漢字で書かれた名前は中国語の音で読みますし、簡体字で皆さんの名前を書きます。コミュニケーションという観点から自分の名前を中国語で読んだらどうなるか、簡体字で書いたらどうなるかを知っておく必要がありますから、これから練習します。

実際、自分の名前を中国語の音で読んだり、簡体字で書くとあまりに印象が変わってしまい、自分の名前でないようだと違和感や拒否感を持つ学生さんが毎年いますので、無理強いは良くないと考えています。

私自身は中国語を話す時は中国語の音で自分の名前を読んでいます。清原Qīngyuánという中国語の音が気に入っていることもありますし、Kiyoharaのkiの音が普通话pǔ tōnghuà（中国語の共通語）の中にはないということもあります。

なお自分の名前を日本語の音で読んで欲しい時は
请叫我～。

Qǐng jiào wǒ ～。

（私を～と呼んでください）

と言えばよいでしょう。

それから、日本人の女性の名前にはひらがなで書くものがありますが、ひらがなのままでは日本語を知らない中国の人には読めませんから、漢字を当てることになります。その時の方法は2つあります。

（１）そのひらがなの名前を漢字で書いたらどうなるか考え、その漢字を中国語読みする。

（例）みどり → 緑 → 绿Lǜ

（２）中国語の漢字音を使って音訳して漢字を当てる。

（例）みどり → 美多麗Měiduōlì

#但し、この方法で全てが音訳できるわけではありません。どうしても音訳しにくい日本語の音はあります。

[PDF教材を見る](#)

[本文の音声を聞く](#)

第9回補足：デポジット

第9回はホテルの部屋で国際電話をかけるシーンでした。中国のホテル全てがそうというわけではないですが、国際電話をかけるためには、先に“押金”yājīn（保証金、デポジット）を払っておかなければならないホテルがあります。またチェックインの際にも、
你刷卡，还是付现金？

Nǐ shuākǎ , háishi fù xiànjīn?

（クレジットカードで払いますか、それとも現金で払いますか）

と尋ねられて、

刷卡。（クレジットカードで払います）

Shuākǎ

と答えると、クレジットカードを見せてくださいと言われ、

付現金。（現金で払います）

Fù xiànjīn.

と答えると、“押金”を払うように言われたりすることがあります。

なお、2006年度に配信したポッドキャスト教材『[憶えておきたい100の表現 中国語版](#)』にもホテルに関する文と電話に関する文を紹介していますので、見てみてください。85番から97番がそうです。

『憶えておきたい100の表現 中国語版』は100個の文の配信は完了していて、現在iTunesを使って100個全部の音声をダウンロードできます。受信方法については[こちらへ](#)。

[PDF教材を見る](#)

[本文の音声を聞く](#)

第9回補足：中国の携帯電話

第9回のプリントでは中国語の電話会社と携帯電話会社のWebページを紹介しました。中国語で携帯電話のことは、“手机”shǒu jīと言います。“机”は「機」の簡体字です。机のことではありません。

中国で売られている携帯電話の価格を見ると、高いなあと思われる方が多いと思います。これは中国が高いのではなくて、日本が安いのです。日本では携帯電話会社からの販売奨励金があるため携帯電話本体を原価以下で販売できます。しかし電話会社はどこかでその分を取り戻さねばなりません。その分は月々の電話代という形で回収しているのです。中国では携帯電話本体は本体としての値段、電話料金は電話料金という形になっているので、一見すると携帯電話本体の価格が高く見えるのです。

携帯電話には電話番号などを記録したSIMと呼ばれる部品が入っていますが、日本ではSIMはロックされていて1台の携帯電話と1つのSIMが固定した関係になっています。中国ではSIMはロックされていないことが普通です。例えば、地元ではAという携帯電話会社のSIMを入れ、出張に出かけた先ではBという電話会社のSIMを入れるということが可能です。そういう点からも上記のような販売方法がとられているのでしょう。

また日本ではすっかり影の薄くなった感のあるPHSですが、中国ではなかなか健闘しているようです。PHSのことは中国語で“小灵通”xiǎo líng tōngと言います。これは中国では携帯電話は電話をかけた人だけでなく、電話を受けた人にも電話料金がかかるのに対し、PHSは電話をかけた人しか料金がかからないからだそうです。

参考：「[中国版PHS『小靈通』の普及とその成功秘話](#)」

以上なるべく正確を期して書いたつもりではありますが、私は中国経済の専門家ではありませんので、より正確で詳しい情報をお求めの方は以下のWebページが参考になると思います。

国立国会図書館「[テーマ別調べ方案内 中国の経済・産業について調べるには](#)」

[PDF教材を見る](#)

[本文の音声を聞く](#)

第10回補足：レストランについて

第10回はレストランを予約するシーンでした。

レストランの個室を予約したい場合は、
我要包房。

Wǒ yào bāofáng.

と言えばよいでしょう。

レストランの個室は雅座yǎ zuòと言います。

“包房”は部屋を貸し切りにするという意味です。

ちなみに“包车”bāochēと言えば、タクシーなど車をチャーターすることです。

レストランの個室を予約する場合には、最低でもこれくらい飲み食いしてくださいという決まり
があることがあります。これを“最低消費”

zuì dī xiāofèiと言います。例えば

最低消费为每桌588元

とあったら、1テーブルあたり最低588元飲み食いしなければならないことになります。

“酒水”jiǔ shuǐ（アルコール飲料）など“饮料”yǐ niào（飲み物）はレストランにとって利幅の大きなものです。日本でも外からアルコール飲料を持ち込むと「持ち込み料」を取られることがありますが、中国語ではこういう「持ち込み料」のことを“开瓶费”kāi píng fèiと言います。文字通りの意味は「瓶を開ける費用」となります。

中国にも食べ放題のバイキング形式のレストランがあります。中国語ではバイキングのことを“自助餐”zìzhùcānと言います。日本でもこういうタイプのレストランに行くと「食べ残し厳禁！」とか「食べ残したら～円いただきます」などの注意書きがありますが、中国でも“浪费罚款”làngfèi fákuǎnとか“剩菜剩饭，罚款×元”shèngcài shèngfàn, fákuǎn × yuánという注意書きがあったりします。

“浪费”は「むだに消費する」、

“罚款”は「罰金を取る」、

“剩菜”は「料理を残す」、

“剩饭”は「ご飯を残す」という意味です。

日本でも中国でもレストランと客の攻防戦は同じのようですね。

[PDF教材を見る](#)

[本文の音声を聞く](#)

第11回補足：レストラン関連用語

第11回は前回に引き続きレストランでの会話でしたが、プリントの分量がいきなり増えて驚かれたと思います。この教材は場面や機能に基づいて作っています。したがって、文法事項については必ずしも易→難の順にはなっていません。この回はたまたま新出の文法事項がたくさんあったのです。今後もこの調子でどんどん難しくなっていくわけではないのですので、ご安心を。

では、レストランに関する語彙をいくつか紹介しておきます。

服务员

fúwùyuán

（ウェイター、ウェイトレス）

#ウェイター、ウェイトレスに限らず、サービス業の従業員をこう言います。

同じ店員でも物を売る人は“售货员”shòuhuòyuánと言います。

菜单

càidān

（メニュー）

点菜

diǎncài

（料理を注文する）

筷子

kuàizi

（お箸）

调羹

tiáogēng

（ちりれんげ、スプーン）

汤匙

tāngchí

（ちりれんげ、スプーン）

碟子

diézi

（小皿）

小碟

xiǎodiǎn

(小皿)

杯子

bēizi

(コップ)

餐巾纸

cānjīnzhǐ

(紙ナプキン)

酱油

jiàngyóu

(醤油)

醋

cù

(お酢)

盐

yán

(塩)

糖

táng

(砂糖)

服务费

fúwùfèi

(サービス料)

小费

xiǎofèi

(チップ)

中国のレストランでは原則的にはチップは要りません。

次に教材には出ていませんが、役に立ちそうな表現を紹介します。

中国料理の名前はなかなか凝っていて、メニューだけではどんな料理かわからないことがあります。日本のように店の前にサンプルを置く習慣ありません。ポッドキャスト教材のようにウェイトレスさんにお勧め料理を尋ねるのもいいですし、また周りを見回しておいしそうな料理を食べている人がいたら、それを指さして
我要跟那个一样的菜。

Wǒ yào gēn nèige yíyàng de cài.

（私はあれと同じ料理が欲しいです）

と言ってみるのも一つの手です。

値段が気になるのなら、

多少钱？

Duōshao qián?

（いくらですか）

と聞きましょう。

中国のコース料理では、前菜→メイン料理→スープとご飯や麺類→デザートという具合に進むのが一般的です。つまりメインの料理を食べている時にはご飯はありません。日本で育った人はどうもおかずとご飯を一緒に食べたくなくなってしまいます。そんなときには
先上米饭来。

Xiān shàng mǐ fàn lái.

（先にご飯を持ってきて）

と言うとよいでしょう。

食べ終わった後、たくさん残ってしまってもったいないので持って帰りたい時は、
能打包吗？

Néng dǎ bāo ma?

（包んでもらえますか）

と聞きます。

特定の料理だけを包んで欲しい時は、その料理を指さして
把这个打包一下。

Bǎ zhèige dǎ bāo yíxià.

（ちょっとこれを包んでください）

とえばいいでしょう。

なお、2006年度に配信したポッドキャスト教材『[憶えておきたい100の表現 中国語版](#)』にもレストランに関する文を紹介していますので、見てみてください。42番から48番がそうです。

『憶えておきたい100の表現 中国語版』は100個の文の配信は完了していて、現在iTunes

を使って100個全部の音声をダウンロードできます。受信方法については[こちら](#)へ。

[PDF教材を見る](#)

[本文の音声を聞く](#)

第12回補足：「小姐」の没落

第12回はレストランでお勘定をするシーンでした。ウェイトレスさんが少し離れた所にて、こちらに呼びたい場合は、

服务员，买单！

Fúwùyuán, mǎi dān!

（店員さん、お勘定！）

と言います。

“服务员”は店員は店員でもサービス業に就いている人だという話は前回[第11回の補足](#)でしました。

以前はこういう時は、

小姐xiǎojiě

と呼びかけたものですが、最近はどうも避けられているようです。

“小姐”は元々は使用人が雇い主の娘を呼ぶときに使う言葉、つまり「お嬢様」という意味でした。それが広く未婚の女性に対する敬称になり、さらにウェイトレスなどサービス業に従事している女性に対する呼称になりました。それだけではなく性風俗産業に従事する女性も指すようにもなったため、近頃ではこの言い方を避ける人もいます。

ウェイトレスさんに対して“美女”měinǚと呼びかける言い方が流行ったそうですが、これが今後広く定着するかどうかわかりませんから、さすがに皆様にお勧めというわけにはいきません。“服务员”と呼びかけるのが無難でしょう。

[PDF教材を見る](#)

[本文の音声を聞く](#)

第12回補足：中国のクレジットカード

第12回ではクレジットカードで支払いをしようとするシーンが出てきます。

クレジットカードは

信用卡xìnyòngkǎ

と言います。

クレジットカードで支払うことを

刷卡shuākǎ

と言います。

以前中国国内で発行されていたクレジットカードは本当の意味でのクレジットカードではなく、銀行にある一定額の預金をしておき、その預金の残高の範囲内で支払いができるというものでした。日本で言うところのデビットカードのようなものだったのです。

近年では預金の残高の範囲を超えてカードが使える、つまり我々が普段言うところのクレジットカードが中国でも発行されるようになってきました。中国ではこの2種類のカードのことを両方とも“信用卡”xìnyòngkǎと言います。

きちんと分けて言うのであれば、

預金残高の範囲内で使えるカード（デビットカード）は、

借记卡

jièjìkǎ

と言います。

預金残高を超えて物を買ったりキャッシングができるカード（クレジットカード）は、

贷记卡

dàijìkǎ

と言います。

預金残高を超えてカードを使うことを

透支

tòuzhī

と言いますが、この“透支”ができるかどうか、**“贷记卡”**と**“借记卡”**の違いです。

[PDF教材を見る](#)

[本文の音声を聞く](#)

第13回補足：値切るのは常識

第13回は買い物で値切るシーンでした。私は大阪出身なので値切るという行為にさほど抵抗感はありませんが、日本の他の地方の人はそうでもないようです。

では、中国ではどうかというと、どうやら中国の人々は値段というのは原価を積み上げたところにあるのではなく、買い手と売り手が交渉の結果これでいいと思った金額が値段と考えているようです。したがって

讨价还价

tǎojià huánjià

（値段の駆け引きをする）

のは当たり前のことです。

こんな諺もあります。

漫天要价，就地还钱。

màntiān yàojià, jiùdì huánqián.

（売り手は途方もない値段をふっかけ、買い手はとことん値切る）

値段は買い手と売り手で相談して決めるものなのです。

ただ、中国の店でも値引き交渉に応じないところもあります。そんな時には
这儿不讲价。

Zhèr bù jìǎngjià.

（ここは値引きはしません）

と言われます。

さて、買い手としては当然

货真价实

huò zhēn jià shí

（品物が確かで、値段も正直）

であって欲しいし、

物美价廉

wù měi jià lián

（品物が良くて、値段が安い）

であることを望みます。

しかし、売り手の方は

卖瓜的不说瓜苦

Màiguā de bù shuō guā kǔ.

（瓜を売る人は瓜がにがいとは言わない）

ことがありますから、買い手の方は品物を吟味し、値段の相場を知っておかねばなりません。

私が学生時代に中国に留学していたころ、中国の人から

在哪儿买的？

Zài nǎr mǎi de?

（どこで買いましたか）

多少钱？

Duōshao qián?

（いくらですか）

と聞かれたことがけっこうありました。当時の中国は今のような高度経済成長期にはまだ入っていませんでしたから、私が日本から持って行った物がまだ珍しかったということもあるでしょうが、買い物に備えて相場を知っておくという姿勢の現れでもあったように思います。日本の他の地方から来た人はびっくりしていましたが、私は別になんとも思いませんでした。というのは「これ、どこでこうたん？（これ、どこで買ったんですか）」「なんぼした？（いくらしましたか？）」というのは「大阪のオバチャン」の会話にはよく登場するセリフだからです。

そうそう、こんな諺もあります。

不怕不识货，只怕货比货。

Bú pà bù shí huò, zhǐ pà huò bǐ huò.

（品物のよしあしがわからなくても心配ない、品物と品物を比べてみればよしあしはすぐにわかる）

どうぞ比較して良い買い物をしてください。皆様の中国でのショッピングがうまくいきますように！

[PDF教材を見る](#)

[本文の音声を聞く](#)

第14回補足：サイズ・長さや重さの言い方

第14回は買い物でサイズ違いや色違いのものを出示てもらった場面でした。関連する語彙を紹介しておきます。

尺寸chǐ cun（サイズ）

尺码chǐ mǎ（サイズ、特に靴や帽子などのサイズ）

胸围xiōngwéi（バスト）

腰围yāowéi（ウェスト）

臀围túnwéi（ヒップ）

三围sānwéi（スリーサイズ）

サイズと言えは長さの単位がつきものです。ここで中国の長さの単位も見ておきましょう。中国の度量衡は“公制”と市制”の2本立てになっています。製品の表示などは“公制”ですが、今でも伝統的な単位である“市制”が市民生活でよく使われています。

公制gōngzhì

厘米límǐ（センチメートル）

公分gōngfēn（センチメートル）

米mǐ（メートル）

公尺gōngchǐ（メートル）

公里gōnglǐ（キロメートル）

市制shìzhì

寸cùn（約3.3センチ）

尺chǐ（3分の1メートル、約33センチ）

里lǐ（500メートル）

ついでに重さの単位も見ておきましょう。

公制

克kè（グラム）

公斤gōngjīn（キログラム）

吨dūn（トン）

市制

两liǎng（50グラムに相当）

斤jīn（500グラムに相当）

中国では野菜や果物は量り売りにすることが多いです。その時の基準になる重さの単位が“斤”であるか“公斤”であるかでは大違いです。私が見る限り、野菜や果物の量り売りでは伝統的な単位である“斤”（500グラム）が基準の単位になっていることが多いようです。

[PDF教材を見る](#)

[本文の音声を聞く](#)

第14回補足：色のイメージ

第14回のプリントではいくつか代表的な色の言い方を書いておきましたが、色には様々なイメージがあります。例えば中国語の“黑色”hēisèには「悪、闇、裏」といったイメージがあります。

黒市hēishì（闇市場）

黑社会hēishèhuì（反社会的組織、マフィア）

黒心hēixīn（悪い考え、腹黒い）

これは日本語でも「黒幕」と言ったりするように共通するのではないかと思います。しかし全てが同じというわけではなく、言語や文化によって異なる色のイメージがあります。ごくおおざっぱですが、中国語の色のイメージをいくつか紹介しておきます。

紅色hóngsè（赤）

おめでたいこと、喜び事の色です。

中国の伝統的な花嫁衣装の色は赤です。（旧正月）に家の入り口に貼る“春联”chūnliánも対になった赤い紙にめでたい言葉を書きます。

“红事”hóngshìは結婚式など喜び事を指します。

白色báisè（白）

白はお葬式など不幸の色を象徴する色です。

今ではブラックスーツで参列するのが普通ですが、中国の伝統的な喪服の色は生成りの白色でした。“白事”báishìはお葬式を指します。

今は気にしませんが、私が留学していた80年代の中国では西洋式の真っ白なウェディングドレスに抵抗を感じる年配の方もいたようです。なぜなら白はお葬式の色だからです。そのためか、“婚纱”hūnshā（ウェディングドレス）という看板をかかげた店のウィンドーには真っ白なウェディングドレスの横に同じデザインの赤やピンクのドレスが置いてありました。

“红白事”で冠婚葬祭という意味になります。

黄色huángsè（黄色）

“皇帝”huángdì（皇帝）を象徴する色です。中国の伝説上の帝王の一人はその名も“黄帝”Huángdìと言います。

また大地を象徴する色でもあります。中国文明をはぐくんだ大河“黄河”Huánghéは“黄土高原”huángtǔ gāoyuánの中を流れていきます。

一方“黄色”には猥褻というイメージもあります。日本語では猥褻を象徴する色はピンクで、ピンク映画などという言葉があったりしますが、中国では“黄色录像”huángsè lùxiàng（ポルノビデオ）と言ったりします。“扫黄”sǎo huángと言えば、猥褻図画書籍の一扫キャンペーンのことです。

私は語源に詳しくありませんが、辞書などによれば英語のyellowの意味の影響を受けたものだと言われています。

緑色lǜ sè（緑）

最近特によく聞かれるようになった色で、“环保”huánbǎo（環境保護）を象徴する色です。“绿色食品”lǜ sè shí pǐ n（自然食品）など、環境に優しい、無公害、健康といった意味でいろんな名詞と結びついて使われるようになっていきます。日本語でも「緑」は自然や環境保護を象徴する色ですが、中国語の“緑色”lǜ sèがどんな名詞とくっついた例があるか、[中国国家环保总局の绿色消费与中国环境标志](#)などが参考になると思います。

【追記】

但し、男性に緑色の帽子を贈るのはタブーです。绿帽子lǜ màoziには寝取られ男という意味があるからです。帽子でなくても緑色の服飾品は避けた方が無難だと思います。

[PDF教材を見る](#)

[本文の音声を聞く](#)

第15回補足：天気に関する言葉

第15回では“天气预报”tiānqì yùbào（天気予報）の話が出てきましたので、天気に関する言葉をいくつか紹介しておきます。

晴天qíngtiān（晴れ）

阴天yīntiān（くもり）

晴qíng（天気予報の用語としての「晴れ」）

多云duōyún（くもりがち、天気予報の用語としての「くもり」）

A转Bの形で天気の変化を言います。

（例）晴转云qíng zhuǎn yún（晴れのちくもり）

（例）雨转晴yǔ zhuǎn qíng（雨のち晴れ）

下雨xià yǔ（雨が降る）

下雪xià xuě（雪が降る）

刮风guā fēng（風が吹く）

打雷dǎ léi（雷が鳴る）

阵雨zhèn yǔ（にわか雨）

暴雨bào yǔ（豪雨）

大雨dà yǔ（大雨）

小雨xiǎo yǔ（小雨）

毛毛雨máo maoyǔ（霧雨）

#日本の[気象庁](#)の「[予報用語](#)」の「[降水](#)」には雨の量に基づく言葉の定義がありますが、上記の訳語はそれを反映したものではなく、日常生活で使われるものです。

梅雨méi yǔ（梅雨）

#“[霪雨](#)”とも書きます。中国は広大な国土を持つ国ですから、地方によって気候はたいへん異なります。梅雨があるのは中国の南方を代表する河川である“长江”Chángjiāng（長江、揚子江）の中下流域の一帯です。

台风tái fēng（台風）

中国の天気予報では風の強さを“[风级](#)”fēngjíと呼ばれる等級を使って言うことがあります。それぞれの級に対する風速（m/s）は以下の通りです。

0级：0～0.2

1級 : 0.3～1.5
2級 : 1.6～3.3
3級 : 3.4～5.4
4級 : 5.5～7.9
5級 : 8.0～10.7
6級 : 10.8～13.8
7級 : 13.9～17.1
8級 : 17.2～20.7
9級 : 20.8～24.4
10級 : 24.5～28.4
11級 : 28.5～32.6
12級 : 32.7～

風速で言われてもピンと来ませんが、[日本の気象庁の定義](#)によれば、最大風速17m/s以上が台風だそうです。とすると8級以上は台風クラスの風ということになりますね。

寒暖の言い方の代表的なものも挙げておきましょう。

暖和nuǎnhuo（暖かい）

热rè（暑い）

凉快liángkuai（涼しい）

冷lěng（寒い）

第15回のプリントでは[中国气象局](#)のWebサイトを紹介しましたが、このWebサイトに入った時、文字化けしているかもしれません。これはWebサイトが文字コードを指定していないため、中国の簡体字を無理矢理日本語の文字コードで解釈して表示しているからです。

Webブラウザの表示メニューの「エンコード」から「簡体字中国語（GB2312）」を選べば、正しく表示されるはずです。

なお、香港や台湾のWebサイトに行った時に文字化けしていたら「繁体字中国語（Big5）」を選べば大概直ります。

[PDF教材を見る](#)

[本文の音声を聞く](#)

ポッドキャストで配信しているプリントには、全ての回ではありませんが、参考Webページへのリンクを作っております。リンクのところにカーソルを持って行くと、カーソルが指の形に変わります。クリックすると注意表示が出ますが「許可」をクリックするとそのWebページにジャンプできます。

さてリンクで飛んだ先は中国語で書かれています。「まだ中国語は初級レベルだから、難しくて読めないなあ。」と思っていらっしゃる方のために、中国語を日本語に無料で翻訳してくれるWebページを紹介します。

もちろんこれら人間が翻訳してくれるものではありません。ソフトウェアが翻訳する機械翻訳です。したがって間違いや珍妙な翻訳も多々あります。こういったソフトウェアを使った機械翻訳の技術は進歩していますが、まだ人間の翻訳にはかないません。ましてやこれらのサービスは無料で提供されているものです。その辺は割り切って、参考程度にお使いください。そして勉強を続けて、いつの日か自分で全部読解できるようになりますように！

[エキサイト翻訳](#)

[Yahoo!翻訳](#)

[Infoseekマルチ翻訳](#)

[フレッシュアイ翻訳](#)

上記のWebページはいずれもテキスト翻訳とWeb翻訳のサービスを提供しています。テキスト翻訳は中国語を直接入力、あるいはコピー＆ペーストして入力します。Web翻訳はWebページの場所（URL）を入力して、Webページを丸ごと翻訳するサービスです。但し、いずれもあまり長いと翻訳できません。

エキサイトは高電社が、Yahoo!とInfoseekはクロスランゲージが、フレッシュアイは東芝が翻訳技術を提供しています。同じ文章でも翻訳技術を提供している会社が違っていると違う結果になりますので、比べてみるのもおもしろいかもしれません。

第16回補足：映画、テレビに関する言葉

第16回はチケットを買うシーンでした。映画のチケットとは限定していない会話ですが、前の回が映画を見に行きましょうで終わっていましたので、今回の補足では映画に関する言葉と、映画と並んで映像によるエンターテインメントの代表であるテレビに関する語彙も紹介しましょう。

- ・ 电影diànyǐng（映画）
- ・ 一部电影yí bù diànyǐng（1本の映画）
- ・ 看电影kàn diànyǐng（映画を見る）
- ・ 拍电影pāi diànyǐng（映画を撮る）
- ・ 放电影fàng diànyǐng（映画を上映する）

- ・ 导演dǎoyǎn（監督）
- ・ 演员yǎnyuán（俳優）
- ・ 男演员nányǎnyuán（男優）
- ・ 女演员nǚyǎnyuán（女優）
- ・ 明星míngxīng（スター）
- ・ 主角zhǔjué（主役）

#zhǔjuéが辞書的には正しい発音なのですが、zhǔjiǎoと発音する中国の人もけっこういます。

- ・ 演主角yǎnzhǔjué（主役を演じる）

- ・ 电影院diànyǐngyuàn（映画館）

中国の映画館は基本的に座席指定です。中には入ると、
対号入座（座席番号どおりにお座り下さい）

duì hào rù zuò

という表示があったりします。

入り口が2つに分かれていて

单号dānhào（奇数番号）

双号shuānghào（偶数番号）

と書いてあれば、座席番号が奇数か偶数かで入り口が違ふということになります。

- ・ 电视diànshì（テレビ）
- ・ 电视台diànshìtái（テレビ局）
- ・ 频道píndào（チャンネル）
- ・ 电视节目diànshìjiémù（テレビ番組）

中国では方言の差が大きく“普通话”p ŭ tōnghuà（共通語）の普及の必要があるためか、テレビ番組ではよく字幕が入りますので、中国語の勉強に役立ちます。

[中央电视台](#)

中国の中央テレビ局にはインターネット放送がありますが、つながりにくいことが多いので気長に待ってください。

- ・ 主持人zh ŭ chí rén（司会者）
- ・ 播音员bō yīn yuán（アナウンサー）
- ・ 新闻xīn wén（ニュース）

新聞のことは“报”bàoと言います。

- ・ 连续剧lián xù jù（連続ドラマ）

日本のように毎週1回決まった曜日、決まった時間に放映されるのではなく、週に何回か異なった時間にバラバラと放映されていきます。

ド라마の回数は“第一集”dì yī jí（第1回）のように数えます。ドラマのタイトルの後ろに“三十集”とついていれば、30回の連続ドラマということになります。

外国製の連続ドラマも放映されています。外国製の連続ドラマのことは国の名前を1文字とって“日剧”Rì jù（日本の連続ドラマ）、“韩剧”Hán jù（韓国の連続ドラマ）と言ったりします。

你喜欢在电影院看电影，还是喜欢在家看电视呢？

N ĭ x ĭ huan zài diàny ĭ ng yuàn kàn diàny ĭ ng, hái shì x ĭ huan zài jiā kàn diànshì ne?

（あなたは映画館で映画を見るのが好きですか、それとも家でテレビを見るのが好きですか）

[PDF教材を見る](#)

[本文の音声を聞く](#)

第17回補足：写真に関する言葉

第17回はカメラのシャッターを押してもらうシーンでしたので、写真に関する言葉を紹介しましょう。

照片zhàopiàn（写真）

一张照片yì zhāng zhàopiàn（1枚の写真）

照相zhàoxiàng（写真を撮る）

拍照片pāi zhàopiàn（写真を撮る）

照相机zhàoxiàngjī（カメラ）

略して“相机”xiàngjīという方が普通です。

また旅の記念にビデオを撮影する方もおられるでしょう。ビデオカメラは“摄像机”shèxiàngjī、あるいは“摄影机”shèyǐngjīと言います。ビデオデッキの方は“录像机”lùxiàngjīです。

以前ならこういった時には“胶卷儿”jiāojiǎnr（フィルム）や“洗胶卷儿”xǐ jiāojiǎnr（フィルムを現像する）、“洗印”xǐ yìn（現像と焼き付け）“加印”jiāyìn（焼き増し）といった単語を教材に出したでしょうが、今は“数码相机”shùmǎ xiàngjī（デジタルカメラ）の時代ですね。

ところで、中国語には日本語と同じ“写真”xiězhēnと書く単語もあるのですが、ちょっと意味が違います。元々は肖像画を描く、肖像画、写真といったような意味でした。近年では日本語と同じ写真という意味でも使われるようにもなったのですが、写真は写真でも個人の写真、それも特にヌード写真を指します。“写真集”xiězhēnjíという言葉も見られますが、芸能人などの写真集を指します。どうやらこの“写真”や“写真集”の用法は日本語の影響を受けたもののようです。

[PDF教材を見る](#)

[本文の音声を聞く](#)

第18回補足：困った時に

第18回は押し売りを断るというテーマでしたが、場面としては観光地でしつこくよってくるお土産売りの人を想定しています。

中国をはじめとして外国へ行ったからと言って、必ず嫌な目や困った目に遭うわけではありません。かと言って嫌な目や困った目に絶対遭わないと言うこともできません。それは日本で暮らしていても同じことだと思いますが、ただ外国にいる場合は日本にいる時よりも慎重に行動した方がいいことは確かです。それは現地で生まれ育っている人に比べれば危機管理能力が劣るからです。

2007年度に配信しているポッドキャスト教材ではそういう困っているシーンというのはほとんど取り上げていませんが、2006年度に配信したポッドキャストでは困った時に役立ちそうな表現をいくつか取り上げていますので、参考にしていいただければと思います。

[大阪府立大学中国語講座——憶えておきたい100の表現](#)

この教材の16番から29番がそうです。このような表現を使うことが一生無いことを私は祈っていますが、万が一の時のためのお守りとして紹介しました。

iTunesをインストール済みの方は、以下のリンクをクリックすると2006年度配信のポッドキャストを登録するための画面が開きます（画面が開くまでに少し時間がかかることがあります）。

[大阪府立大学中国語講座——憶えておきたい100の表現」をiTunesで見る](#)

2006年度のポッドキャスト教材やその受信の仕方など詳しくは大阪府立大学初修外国語Podcastホームページをご覧ください。

[PDF教材を見る](#)

[本文の音声を聞く](#)

第20回補足：バス・地下鉄・電車

第20回はバスに乗るシーンでした。ということで、中国の公共交通の手段について紹介します。
公共汽车（路線バス）

gōnggòngqìchē

これが規範的な言い方で、私が学生の時の教材はもっぱらこの単語でしたが、中国大陆では最近
“公交车”gōngjiāochē
という言い方がよく聞かれます。

台湾では“公共汽车”を省略した形として“公车”gōngchē（繁体字表記は“公車”）という言い方がある
そうですが、この“公车”は中国大陆では「公用車」という意味になります。

香港では英語のbusからの音訳語の“巴士”bāshìという言い方がありますが、これも大陸で使われる
ようになってきています。

“无人售票”wú rén shòu piào（切符を売る人がいない）ワンマンカーも増えていますが、まだ“售
票员”shòupiàoyuán（切符を売る人、車掌）が乗っているバスもあります。

バスの行き先表示を見てもよくわからないことがあります。そんな時は乗る前に車掌さんに
到xx吗？（xxへ行きますか）

Dào xx ma?

と聞きばよいでしょう。xxの所には行きたい場所やバス停の名前を入れます。

なおバス停のことは“车站”chēzhànと言いますが、“车站”には駅という意味もあります。特に「駅
」の方をはっきりと指したければ“火车站”huǒ chēzhànと言います。

日本では大概のバスに次ぎのバス停を案内するテープ放送が入りますが、中国では今のところま
だ全てのバスがそうというわけではないようです。バスの車掌のアナウンスを少し紹介しまし
ょう。

下一站是xx路。有没有要下车的？

Xià yí zhàn shì xx lù. Yǒu méi yǒu xiàchē de?

（次のバス停はxx路です。降りる人はいますか）

郊外の路線など人の乗り降りが比較的少ないところだと、乗客から返事がないとバス停を飛ばし
てしまうことがあります。

バスを降りたい時は

我要下车。（降りたいです）

Wǒ yào xiàchē.

と言います。

現在上海など中国の大都市では“公交卡”gōngjiāokǎ（公共交通カード）と呼ばれる“车费”chēfèi（

乗車料金）を支払うためのICカードがあります。現金をカードに“充值”chōngzhí（チャージ）しておいて、“刷卡”shuākǎ（カードで払う）だけですから、“售票员”が“没票，买票！”Méi piào, mǎi piào.（切符を持ってなければ、切符を買って！）と呼ばれる光景もそのうちなくなるのでしょうか。

路線バスはやはりある程度中国語ができないと使いこなすのは難しいと思います。また都市部では年々交通渋滞が激しくなっており、バスが渋滞に巻き込まれるとたいへんです。その点、北京や上海など大都会にしかないのですが、“地铁”dìtiě（地下鉄）は便利です。なお、地下鉄の駅のことは“地铁站”dìtiězhànと言います。

さて最後は電車です。電車という日本語の訳は案外難しいのです。そのものずばり“电车”diànchēという単語もありますが、“电车”には「トロリーバス」（車体はバス、エンジンではなく架線から電気をとって走る車両）という意味があります。但し日本で暮らしている中国の方は日本語と同じ意味で“电车”を使いますが。

では電車の訳語として“火车”huǒchē（列車）はどうでしょうか？

中国で“火车”と言えば、長距離移動の手段、出張や旅行、帰省の際に乗る交通機関というイメージです。“坐火车出差”zuò huǒchē chūchāi（列車に乗って出張する）という表現には違和感はありませんが、“我坐火车上班。”Wǒ zuò huǒchē shàngbān.（私は列車に乗って出勤します）と言うと中国の方にちょっとぎょっとされるかもしれません。

通勤に使う電車、つまり都市の近郊から都市中心部へ向かう電車のことは何というかと言うと、“城铁”chéngtiěと言ったり“轻轨”qīngguǐと言ったりするようです。こういう言葉の使い方は私が学生時代には聞いたことがありませんでした。中国の都市化とそれに伴う新しい公共交通手段の出現を反映した言葉と言えるでしょう。

[PDF教材を見る](#)

[本文の音声を聞く](#)

第19回補足：「～しまちがえました」の言い方

第19回のテーマは「勘違い」でした。課文の中には出てきていませんでしたので、「～しまちがえました」の言い方を紹介します。

間違い電話をしたときは、

对不起，我打错了。（すみません、かけ間違えました）

Duìbuqǐ , wǒ dǎ cuò le.

人違いをしたときは、

对不起，我认错人了。（すみません、人違いしました）

Duìbuqǐ , wǒ rèn cuò rén le.

#“认”は人や文字、場所などの特徴を知っていて見分けることができるということです。

道を間違えた時には、

我走错路了。（道を間違えました）

Wǒ zǒu cuò lù le.

列車やバスを乗り間違えた時には、

我坐错车了。（乗り間違えました）

Wǒ zuò cuò chē le.

以上の例からわかるように、“错”は「まちがっている」という意味で、動詞+“错”で「～しまちがる」という言い方ができるのです。

もう少し例を挙げておきましょう。

写错了（書き間違えた）

xiě cuò le

填错了（書き間違えた）

tián cuò le

#書類を記入しまちがえた時に使います。“填”は空欄を埋めるという意味です。

听错了（聞き間違えた）

tīng cuò le

说错了（言い間違えた）

shuō cuò le

この「～しまちがえた」という表現を紹介する時に、私がいつも思い出す言葉があります。

不要怕说错，大胆说！

Búyào pà shuōcuò, dàdǎn shuō!

(言い間違えることを怖がってはいけません。大胆に話さない！)

これは私が大学３年生の時に中国語会話を担当して下さった張成銘先生が、私たちに常に言い続けてくれた言葉です。当時の私は中国語の筆記試験ではそれなりの成績が取れても、会話能力が低いという学生でした。張成銘先生はこう言って私たちを励ますだけでなく、私たちの話す拙い中国語を辛抱強く聞いてくださいました。また中国語が拙いからと言って、私たちを子供扱いするのではなく、大学生として扱い、私たちの中国語のレベルでもわかるようにかみ砕いて中国語で中国や中国文化に関する知的な話をしてくださいました。

中国語教員としての私は張成銘先生に遙かに及びませんが、私が学んできた中国語を少しでも皆さんに伝えられたらと思います。

[PDF教材を見る](#)

[本文の音声を聞く](#)

第21回補足：タクシーについて

第21回はバスの中で降りる場所を教えてくださいのように頼むシーンでした。中国のバスにも案内放送や次のバス停を示す電光表示を備えたものがないわけではありませんが、バスというのは基本的には地元の人のための交通機関ですので、全てのバスにそういったものが完備されている状態には今のところなっていません。ただ中国社会の変化は近年非常に速いので、この記事もいつ時代遅れになるかわかりませんが。

中国語があまり得意ではない旅行者にとって便利な交通機関としてはタクシーがあります。タクシーであれば目的地まで乗せていってくれますから、とにかく行き先を言えればなんとかなりますね。

タクシーに乗ったら“司机”sījī（運転手）が
到哪儿？（どこまでですか）

Dào nǎr?

とか

去哪儿？（どこへ行きますか）

Qù nǎr?

と聞いてきますので、目的地を告げます。発音に自信がない時は紙に書いたものを一緒に見せるという手もあります。

タクシーのことは、規範的な言い方としては“出租汽车”chūzū qìchē、或いはそれを縮めた“出租车”chūzū chēですが、“的士”díshìという香港あたりで使われていた英語のtaxiの音訳語が大陸でも使われるようになりました。台湾では“计程车”jìchéngchē（繁体字表記は“計程車”）と言います。

また規範的な言い方では「タクシーに乗る」は“坐出租汽车”zuò chūzū qìchēと言いますが、“打的”dǎdīという言い方も近年よく聞かれます。さしずめ「タクシーする」といったような感じの言い方です。

街で流しのタクシーをつかまえることができますが、もしホテルなどでタクシーを呼んで欲しいときは以下のように言います。

请帮我叫一辆出租车。（タクシーを1台呼んでください）

Qǐng bāng wǒ jiào yí liàng chūzūchē.

郊外の観光地などに行きたくて、タクシーを1日ないしは半日チャーターしたい時は次のように言います。

我要包车。（車をチャーターしたい）

Wǒ yào bāo chē.

“包”は貸し切りにするという意味です。チャーターする時には、事前によく料金について確認しておいてください。

ただこれは中国に限らずある現象ですが、こちらが旅行者で地理に疎いと知るとわざと遠回りをしたりするタクシーもいたりしますし、空港や駅で盛んに客引きをしている所謂「白タク」もあります。こういう白タクのことを中国語で“黑车”hēichēと言います。空港や駅では客引きは相手にせず、“出租车等候区”chūzūchē děnghòu qū（タクシー乗り場）で乗りましょう。

“正规出租车”zhèngguī chūzūchē（正規の営業許可を持ったタクシー）であれば、“计价器”jìjiàqì（メーター）がある他に、車内に運転手の“姓名”xìngmíng（名前）や“车号”chē hào（車両番号）等を書いた“运营证”yùnyíngzhèng（運送営業許可証）を表示しています。“监督电话”jiāndū diànhuà、“投诉电话”tóusù diànhuàと呼ばれる苦情受け付け電話番号を表示していることもあります。

ちゃんとしたタクシーなら何も言わなくてもメーターから印字される領収書を渡してくれるはずですが、もしくれなければ、万が一忘れ物をしたときなどのためにも、降りる際には必ず“发票”fāpiào（領収書）をもらうようにした方がよいでしょう。

こう書いてくると、中国でタクシーに乗るのはちょっと.....と思われるかもしれませんが、以上は万が一をつい心配してしまう私の性格から出たもので、中国のタクシー料金は日本に比べれば随分安いですから、うまく使えば旅の足として便利ですよ。

[PDF教材を見る](#)

[本文の音声を聞く](#)

第22回補足：距離や所要時間の尋ね方

第22回は道を尋ねるシーンでした。道を尋ねる時に役立ちそうな表現については、昨年度配信したポッドキャスト教材も参考にしてください。

[大阪府立大学中国語講座——憶えておきたい100の表現](#)

この教材の64番・67番・72番から79番までがそうです。

iTunesをインストール済みの方、以下のリンクをクリックすると2006年度配信のポッドキャストを登録するための画面が開きます（画面が開くまでに少し時間がかかることがあります）。

[「大阪府立大学中国語講座——憶えておきたい100の表現」をiTunesで見る](#)

2006年度のポッドキャストの受信の仕方など詳しくは[大阪府立大学初修外国語Podcastホームページ](#)をご覧ください。

道を尋ねる時には道順以外にどれくらい距離があるか尋ねたいこともありますね。

离这儿有多远？（ここからどれくらいの距離ですか）

Lí zhèr yǒu duō yuǎn?

答えとしては具体的な距離、例えば

大概×公里吧。（だいたい×キロメートルくらいでしょう）

Dàgài × gōnglǐ ba.

などという答えがかえってくることもあるでしょうし、

走路×分钟。（歩いて×分です）

Zǒulù × fēnzhōng.

のように、行き方と所要時間で答えが返ってくることもあります。

#×のところには数字が入ります。

道を尋ねる時に限らず、何かの所要時間を聞きたい時には

要多长时间？（どれくらい時間がかかりますか）

Yào duō cháng shíjiān?

と聞きます。

この場合、答えの単位はいろいろありえます。

（例）两分钟liǎng fēnzhōng（2分間）

（例）两个小时liǎng ge xiǎoshí（2時間）

（例）两天liǎng tiān（2日間）

（例）两个星期liǎng ge xīngqī（2週間）

(例) 两个月li ǎ ng ge yuè (2 ヶ月)

(例) 两年li ǎ ng nián (2 年)

特定の時間の単位で尋ねたいときは以下のような言い方があります。

要几分钟？(何分間かかりますか)

Yào j ǐ fēnzhōng?

要几个小时？(何時間かかりますか)

Yào j ǐ ge xi ǎ oshí?

要几天？(何日間かかりますか)

Yào j ǐ tiān?

要几个星期？(何週間かかりますか)

Yào j ǐ ge xīngqī?

要几个月？(何ヶ月かかりますか)

Yào j ǐ ge yuè?

要几年？(何年間かかりますか)

Yào j ǐ nián?

2 点間の距離や所要時間を尋ねたい時は、前置詞の“从”と“到”を使います。

#XとYのところに自分の知りたい2 点を入れます。

从X到Y有多远？(XからYまでどれくらいの距離ですか)

Cóng X dào Y y ǒ u duō yu ǎ n?

从X到Y要多长时间？(XからYまでどれくらい時間がかかりますか)

Cóng X dào Y yào duō cháng shíjiān?

[PDF教材を見る](#)

[本文の音声を聞く](#)

第23回補足：郵便に関する言葉

第23回は郵便局のシーンでした。郵便に関する言葉を紹介しておきましょう。

邮局yóujú（郵便局）

寄jì（郵送する）

信xìn（手紙）

明信片míngxìnpìan（はがき）

航空信hángkōngxìn（エアメール）

平信píngxìn（普通郵便）

挂号信guàhàoxìn（書留郵便）

快件kuàijiàn（速達）

特快专递tèkuài zhuāndì（EMS）

所変われば品変わる、中国の“邮筒”yóutǒng（郵便ポスト）は赤ではなく深緑色です。

また“信封”xìnfēng（封筒）の表書きの仕方も少し異なります。

横書きの封筒が一般的で、左上の角に“邮政编码”yóuzhèng biānmǎ（郵便番号）を書く欄があります。

真ん中にはまず“收信人”shōuxìnrén（手紙を受け取る人）の“地址”dìzhǐ（住所）を書きます。住所を書く順番は日本と同じで大きな地名→小さな地名です。

住所の次の行は手紙を受け取る人の名前ですが、日本語の「～様」に当たるのは言葉は“收”shōuです。親しい相手なら敬称無しで“收”を名前につければよいですが、目上の人や取引先の人の場合は敬称や肩書きをつけてから“收”をつけるとよいでしょう。

（例）李志华先生收

#“先生”xiānshengは主に男性一般に使う敬称です。必ずしも教師とは限りません。女性用としては“女士”nǚshìがあります。

（例）李志华教授收

#相手が“副教授”fùjiàoshòu（准教授・助教授）であっても、普通は“副”はつけないでおきます。この例に限らず“副xx”という肩書きの人はそうします。

（例）李志华经理收

#“经理”jīnglǐは社長という意味です。経理をしている人ではありませんのでご注意を。

次に“寄信人”jìxìnrén（手紙を送る人）の住所・氏名・郵便番号を書きますが、日本では封筒の「裏」に書くのが普通ですが、中国では封筒の「表」の右下の部分に少し小さめの字で書きます。

手紙を送る人の名前の後に“寄”jì（郵送する）や“缄”jiān（封をする）という字を添えます。

（例）田中一郎寄

（例）田中一郎 臧

封筒の裏に送り手の名前や住所を書いたものも見たこともありますが、その場合は私の印象では日本と違って封筒のフタの部分に書いていることが多かったように思います。

“邮票”yóupiào（切手）は封筒の表の右上の角に貼ります。

包裹bāoguǒ（小包）

海运hǎiyùn（船便）

小包の場合は

你寄航空，还是寄海运？

Nǐ jì hángkōng, háishi jì hǎiyùn?

（航空便で送りますか、それとも船便で送りますか）

と聞かれます。

日本だと小包の中身を詳しく聞かれたり見られたりすることはまずありませんが、中国ではチェックされますので、封をせずに持って行きます。梱包用の資材は郵便局で売っています。

以前私が中国でたくさんCDやDVDを買って日本へ送ろうとしたらひっかかってしまったことがあります。CDやDVDを買った時のきちんとした“发票”fāpiào（領収書）がないと送れない、“小票”xiǎopiào（レシート）ではだめだと言われました。恐らく海賊版の輸出を警戒した措置ではないでしょうか。

また日本と違って小包は自分で郵便局に取りに行きます。自分に小包が届いたという通知だけがまず先に来て、通知に指定された近くの郵便局に“身份证”shēnfènzhèng（身分証明書）を持って小包を取りに行きます。外国人の場合は“护照”hùzhào（パスポート）や“居留证”jūliúzhèng（滞在許可証）が身分証明になります。小包を受け取りに行くことは“取包裹”qǔ bāoguǒと言います。

あと日本と違っていておもしろいなと思ったのは、新聞や雑誌の定期購読の申し込みを郵便局が受け付けていることです。新聞を定期購読することは“订报纸”dìng bàozhǐ、雑誌を定期購読することは“订杂志”dìng zázhìと言います。

[PDF教材を見る](#)

[本文の音声を聞く](#)

第24回補足：病院に関する言葉

第24回は病院で診察を受けるシーンでした。

病院や病気に関連する表現を補充しておきます。

医院yīyuàn（病院）

#日本語では入院施設のある比較的大きな規模のものを病院、入院施設がなくて外来診療だけのものを医院と言いますが、中国語では病院のことを“医院”と言います。外来診察しかないような規模の小さな所は“诊所”zhěnsuǒ、あるいは“门诊”ménzhěnと言います。

住院zhùyuàn（入院する）

#大きな病院で“住院部”zhùyuàn bùと書いてあれば、入院患者用の病棟です。“门诊部”ménzhěn bùと書いてあれば、外来診察用の病棟です。

医生yīshēng（医者）

#医者専用の呼称に“大夫”dàifuがあります。

（例）王大夫（医者の王先生、ドクター王）

护士hùshi（看護師）

我要看病。（診察を受けたいです）

Wǒ yào kànbìng.

#患者が診察を受けることも、医者が診察することも“看病”と言います。

（病院の窓口で）

我要挂号。（診察を申し込みたいです）

Wǒ yào guàhào.

#“挂号”には書留にするという意味もあります。それについて詳しくは第23回のプリントを参照してください。

私は保険会社の回し者ではありませんが、中国に行くときに限らず海外に行くときは万が一病気になった時のために海外旅行保険をかけていくことをお勧めします。日本では健康保険制度が普及しているので、ちょっとした病気くらいでは医療費の高さを意識することはありませんが、海外ではそうではありません。

中国ではまだ健康保険制度が普及していないので、治療を始める前に治療費の前払いを求められることがあります。そんな時海外旅行保険に入っていると、前払いなしで診察してくれたり、日本語を話せる医者のいる病院を紹介してくれたりします。

診察を申し込む際には保険に入っていると伝えるとよいと思います。

我参加了保险。（私は保険に入っています）

Wǒ cānjiǎle bǎoxiǎn.

打针dǎzhēn（注射を打つ）

吃药chīyào（薬を飲む）

#薬の飲み方の指示の例

每天三次，每次两片，饭后半小时服用。

měitiān sān cì, měi cì liǎng piàn, fàn hòu bàn xiǎoshí fúyòng.

（毎日3回、毎回2錠、食後30分に服用）

动手术dòngshǒushù（手術をする）

做手术zuòshǒushù（手術をする）

祝你早日康复。（一日も早いご快復をお祈りします）

Zhù nǐ zǎorì kāngfù.

#“祝”は「祈る、願う」という意味です。

[PDF教材を見る](#)

[本文の音声を聞く](#)

第25回補足：待ち合わせに関する表現

第25回は人を家に招待するシーンでした。

人を誘う時にはまずは相手の都合を確かめますね？

明天你有空吗？

Míngtiān nǐ yǒu kòng ma?

（明日あなたは暇がありますか）

“空”（暇）の代わりに“时间”（時間）を入れて言うこともできます。

明天你有时间吗？

Míngtiān nǐ yǒu shíjiān ma?

（明日あなたは時間がありますか）

課文では無事OKということになっていましたが、都合が悪くて断らなくてはならないときには
对不起，我明天有事儿。

Duìbuqǐ, wǒ míngtiān yǒu shìr.

（すみません、私は明日用事があります）

「用事がある」という部分をもう少し具体的に言うには、
我有工作。（仕事があります）

Wǒ yǒu gōngzuò.

我有约会。（人と会う約束があります）

Wǒ yǒu yuēhuì.

我有课。（授業があります）

Wǒ yǒu kè.

などがあります。

こう答えると、

那，后天怎么样？

Nà, hòutiān zěnmeyàng?

（じゃあ、あさってはどうですか）

と違う日を提案されるかもしれません。

時にはとにかく忙しくてしばらく時間が取れそうにもないときがあります。そういう時は、
真对不起！我最近太忙了，实在没有时间。

Zhēn duìbuqǐ! Wǒ zuìjìn tài máng le, shízài méi yǒu shíjiān.

（本当にすみません。私は最近たいへん忙しくて、本当に時間がないんです）

と答えるとよいかと思います。

私はどうやらこういう否定的な場面を紹介したがる癖があるようです。私の性格のせいもある

でしょうが、物事がうまく行っている時というのは極端な場合ニコニコ笑ってうなずいているだけでもよいかもしれませんが、真に言葉が必要なのは否定的な場面ではないか？と思うからです。

なお、今ちょっと時間を取って欲しいので、相手の都合を聞きたい時は、
你现在方便吗？（今よろしいですか）

Nǐ xiànzài fāngbiàn ma?

と言います。“方便”は「都合がよい、便利」という意味です。

さて、待ち合わせに話を戻しますと、課文には待ち合わせの時間と場所を提案する言い方として、

<時間>+在+<場所>+等我，好吗？

（<時間>に<場所>で私を待っていてくれますか）

という表現が出てきましたが、

<時間>+在+<場所>+见，怎么样？

（<時間>に<場所>で会うのはどうですか）

という表現もあります。

（例）晚上七点在饭店门口见，怎么样？

Wǎnshàng qī diǎn zài fàndiàn ménkǒu jiàn, zěnmeyàng?

（夜7時にホテルの入り口で会うのはどうですか）

別の待ち合わせの時間や場所を提案したければ、

<時間>，怎么样？

（例）八点，怎么样？（8時はどうですか）

Bā diǎn, zěnmeyàng?

在+<場所>，怎么样？

（例）在车站，怎么样？（駅でどうですか）

Zài chēzhàn, zěnmeyàng?

と提案するとよいでしょう。

無事、待ち合わせの相談がまとまりました。

その時には、

好，不见不散！

Hǎo, bú jiàn bú sǎn.

と言います。

“好”は承諾の返事（わかりました）という意味です。“好”の代わりに“行”xíng（OK、だいじょうぶ）と言ったりもします。

“不见不散”は人と会う約束をした時の決まり文句で、直訳すると「会うまで（その場を）離れない」＝「きっと来てね」くらいの意味です。

待ち合わせ当日、もし遅れてしまった場合は、
对不起，我来晚了。

Duìbuqǐ , wǒ lái wǎn le.

（すみません、遅れました）
と謝ります。

最近中国は経済の発展に伴い、交通渋滞が激しくなっていますから、
对不起，路上堵车，我来晚了。

Duìbuqǐ , lùshàng dǔchē, wǒ lái wǎn le.

（すみません、道が渋滞していて、遅れました）
ということもあるでしょうね。

渋滞くらい見込んで早く出かければいいのと思うかもしれませんが、
路上出了车祸，堵车了。

Lùshàng chūle chēhuò, dǔchē le.

（交通事故が起こって、渋滞してしまった）
のかもしれないし、その他何か突発的な事態が発生したのかもしれない。

最近の日本では何事も自己責任という言葉で片付けられてしまう傾向があるようですが、世の中の出来事を全て自分がコントロールできるはずもなく、自分ではどうしようもないこともあります。そういう時に相手の説明を聞いてあげる余裕、説明がきちんとあれば相手を許す余裕が欲しいものですね。これは自戒を込めて言っていますけれども。
こういう自分ではどうしようもない出来事に対する寛容さは中国の方があるように思います。あくまで私の印象ですが。

[PDF教材を見る](#)

[本文の音声を聞く](#)

第26回補足：プレゼント、縁起担ぎ

第26回はプレゼントを渡すシーンでした。中国の方にプレゼントを渡した時、1回ですんなり受け取ってもらえることはまずありません。遠慮して受け取らないことが普通ですし、それが礼儀と言っても過言ではないでしょう。そこであきらめないでがんばってプレゼントを渡してください。今回の教材でも（わざわざあなたのために）「日本から持って来たんです」といってはじめて相手も納得して受け取っています。

日本では客の持ってきたお菓子などをその場で開けて一緒に食べたりすることもあります。中国では受け取ったプレゼントをその場ですぐに開けることは普通はしません。贈り主が帰ってから開けます。その場でプレゼントを開けて喜ばないからと言って、残念に思わないでくださいね。

日本ではお祝いの品として掛け時計や置き時計を贈ることがありますが、それは中国では考えものです。

掛け時計は“挂钟”guàzhōng、置き時計は“座钟”zuòzhōngと言いますが、“送钟”sòng zhōng（置き時計や掛け時計をプレゼントする）の発音が、“送终”sòngzhōng（死に目にあう、死に水を取る）に通じるからです。でも腕時計は問題ありません。腕時計は“手表”shǎo biǎo ǎoと言うからです。

こういった“谐音”xiéyīn（発音が同じ或いは近いこと）による縁起担ぎというのはいろいろあります。プレゼントの話からははずれますが、少し紹介しましょう。

例えば、コウモリは日本では不吉な感じのする生き物とされていますが、中国では縁起の良い図案に使われます。コウモリのことを“蝙蝠”biānfúと言いますが、“蝠”fúの発音が“福”fúに通じるからです。

また、“发菜”fàcàiという藻の一種があります。見た目が“头发”tóufa（髪の毛）に似ているのでそう言います。“汤”tāng（スープ）の具にして食べることが多いのですが、味は何ということはありません。しかし、“发菜”fàcàiの発音が、“发财”fàcái（お金がもうかる）の発音に近いので、縁起が良い食べ物とされます。

【注】

上の例の中に出てくる“发”の字には2つの発音があります。簡体字を作る時に別の字だったものを1字に統一したのです。元の字が“發”（日本語の漢字で書くと「発」）の時はfā、元の字が“髮”の時はfàと発音します。

但し、複数の発音がある字が全てこうだというわけでは決してありません。1つの字が元々複数

の発音を持っていることがあるのです。発音が違えば同じ字でも意味が異なります。

（例）快乐kuàilè（楽しい）と音乐yīnyuè（音楽）。

“乐”は楽という字で、元々1つの字に2つの発音があるのです。

[PDF教材を見る](#)

[本文の音声を聞く](#)

第27回補足：お呼ばれ

この教材は1回1回が独立した話になっています。それはiPodやiTunesでシャッフルモードで聞くことを想定しているからです。第1回から順番通りに聞くのもいいですが、時にはシャッフルして聞くと、新鮮な気分で学習できるのではないかと思います。

各回が独立した内容になっているとはいえ、第1回からお聞きに方は、そこはかとなく話のつながりがあるのにお気づきでしょう。第27回の教材では「昨日どこへ行きましたか」のようなおしゃべりをしていますが、第25回、第26回の続きという風にこの回をとらえると、さしずめこの回はお呼ばれしたうちでのお昼ご飯をいただきながらのおしゃべりということになりますでしょうか。

食事時にかかるような時間に人に会うということは、まずまちがいなく誘った方が食事を出してくれます。外で食事時に会う場合も誘った方がおごります。最近では若い人の間では“AA制”AA zhì（割り勘）もあるようですが、中国では誘った方が“请客”qǐngkè（おごる）のが当然です。「今日は私が誘ったから私のおごり」「じゃあこんどは私がおごるわね」となれば次にまた会う機会ができる、そうやって人間関係は続いていくと中国の人々は考えているのでしょう。それをその場で割り勘にしてしまうと、そこで関係がとぎれてしまうような冷たい感じがするのだと思います。

家に招いた場合も、レストランでおごる場合も、それこそ食べきれないような量の料理が出るのが普通です。それが招いた側、誘った側の礼儀でありメンツですから、料理は残るのが当たり前なのです。

これにまつわる日中間の悲喜劇はあちらこちらですでに書かれていますので、みなさんご存知でしょう。中国側は張り切ってたくさん料理を準備する。日本側は残したら失礼かと思って必死で食べる。中国側は料理が残り少なくなったので、慌てて追加する。日本側はまた必死で食べる……すると中国側は……

逆に言えば、日本側が招待する時にちょうど食べきれるような量を出すと、招待したこちらの気持ちが伝わらないばかりか、相手を軽んじていると誤解されかねません。また日本料理では冷たいものもメインディッシュになりますが、中国ではメインディッシュは必ず温かい料理を出します。冷たい料理は前菜という認識ですので、料理を出す時にはご注意ください。

“中国菜”Zhōngguó cài（中国料理）は大皿に盛られて出てきて、それを自分の“筷子”kuàizi（お箸）で取り皿にとります。“公共筷”gōnggòng kuài（取り箸）という単語もあるのですが、実際には常に用意されているものではないようです。

日本ではあまり見かけない習慣として、招いた側が自分のお箸で料理を取って、客の取り皿に入れるというのがあります。気がつくと取ってくれた料理で自分の取り皿がいっぱいになっていたりします。これは主人の客への歓待の気持ちを表しています。盛られたもののうち食べたいものだけ食べればよいのです。でもどうしてもこの習慣になじめないのでしたら、“谢谢，我自己来。”Xièxie, wǒ zì jǐ lái.（ありがとう、じぶんで取りますから）という手もあるでしょう。

お呼ばれにはお酒はつきものです。これもよく言われていることですが、中国で“干杯”gānbēi（乾杯）と言え、文字通り「杯を飲み干す」ことで、日本のように一口つけて後は置いておく、或いは後でちびちび飲むということはしません。しかし、中国式の“干杯”を続けていると身体が持ちませんし、中国でもお酒は大いに楽しく飲むべきものですが、酔いつぶれて人前で醜態をさらしてしまうことに対しては日本ほど寛容ではないと思います。“干杯”が無理だなと思ったら、“随意”suíyì（好きなだけ）と言ってグラスを挙げましょう。飲み干さずに残すこともありますよという言い方です。などと偉そうに書いていますが、“我不会喝酒。”Wǒ bú huì hē jiǔ.（私はお酒を飲めません＝私は下戸です）。

[PDF教材を見る](#)

[本文の音声を聞く](#)

第28回補足：趣味は健康的に、音楽に関する言葉

第28回は趣味というテーマでした。

中国語の“爱好”àihàoと、日本語の「趣味」には若干の意味のずれがあります。日本語の趣味は煎じ詰めれば「好きでよくすること」という意味合いだろうと思いますが、、中国語の“爱好”は文化的な活動やスポーツなどの健康的な活動に限られるようです。酒・タバコ・ばくちといった不健康なものや、眠ることなど特に意図的に取り組む必要のない行為は、“爱好”とは言いません。

課文の中では趣味として音楽を聴くことが挙げられていましたが、聴くだけではなく自分で歌うのも好きという方もおられるでしょう。歌を歌うことは“唱歌”chàng gēと言います。

歌を歌うと言えば、日本発の文化であるカラオケは“卡拉OK”kā lā OKと言います。発音からおわかりのように日本語のカラオケを音訳したものです。「カラオケをする」は“唱卡拉OK”chàng kā lā OKと言います。

楽器の演奏がお好きな方もおられるでしょう。

弹钢琴tán gāngqín（ピアノを弾く）

弹吉他tán jítā（ギターを弾く）

拉提琴lā tíqín（バイオリンを弾く）

拉二胡lā èrhú（二胡を弾く）

#“提琴”はバイオリン・ビオラ・チェロ・コントラバスの総称としても使います。

#“二胡”は胡弓の一種で2本の弦を弓で弾きます。

日本語では弦楽器は一律に「弾く」と言いますが、中国語では動詞を使い分けています。“弹”は指ではなく動作を指します。ピアノやギターを弾くときの指の動きをそのようにとらえているのですね。“拉”は引っぱるという意味です。こちらは弓で弦を弾くときの動作に着目しています。

吹长笛chuī chángdí（フルートを吹く）

吹小号chuī xiǎohào（トランペットを吹く）

打鼓dǎ gǔ（ドラムをたたく）

击鼓jī gǔ（ドラムをたたく）

それから、課文の中では「～するのが好き」という言い方がポイントの一つになっていました。我喜欢听音乐。

Wǒ xǐ huan tīng yīnyuè.

（私は音楽を聴くのが好きです）

この構文を使って語彙を増やす練習をしてみましょう。

“听音乐”tīng yīnyuè（音楽を聴く）の部分を以下のフレーズと入れ替えて言ってみてください。

看书kàn shū（本を読む）

看小说kàn xiǎoshuō（小説を読む）

看电影kàn diànyǐng（映画を見る）

画画huà huà（絵を描く）

集邮jíyóu（切手を集める）

下棋xiàqí（将棋や囲碁をする）

下象棋xià xiàngqí（将棋をする）

下围棋xià wéiqí（囲碁をする）

打球dǎ qiú（球技をする）

打篮球dǎ lánqiú（バスケットボールをする）

打乒乓球dǎ pīngpāngqiú（卓球をする）

打网球dǎ wǎngqiú（テニスをする）

打高尔夫球dǎ gāo'ěrfūqiú（ゴルフをする）

打棒球dǎ bàngqiú（野球をする）

踢足球tī zúqiú（サッカーをする）

中国の“象棋”（将棋）は日本の将棋と駒や盤、ルールが異なります。日本の将棋と言いたければ“日本象棋”Rìběn xiàngqíと言えましょう。ちなみにチェスのことは“国际象棋”guójì xiàngqíと言います。

中国では“下棋”（囲碁や将棋をする）はスポーツの一種と考えられていて、新聞でも“体育”tǐyùのコーナーに載っています。頭も身のうち、頭を使ったスポーツというわけです。

日本語では野球もサッカーも「する」ですが、中国語では使い分けています。“踢足球”の“踢”は「ける」という意味です。

[PDF教材を見る](#)

[本文の音声を聞く](#)

第29回補足：中国語がお上手ですねと言われて

今回の課文では中国語がうまいですねと誉められるシーンが出てきます。

私が学生だった頃、

你中文说得很好。

N ǐ Zhōngwén shuōde hěn h ǎ o.

とか

你中文说得真不错。

N ǐ Zhōngwén shuōde zhēn bú cuò.

#“不错”（なかなか良い）

と誉められると初めは素直に喜んでいました。

中国の方は大概誉め上手ですし、当時はまだ今ほど中国語を話す外国人が多くなく、外国人が少しでも中国語をしゃべると喜んでもらえたということもあります。ただ、何度も言われているうちに、だんだんひねくれて来ました。当時の私はまだ若くて無謀でしたから、中国人に対しては中国語がうまいですねとは言わないだろう。ということは私はちょっと話せばすぐ外国人だとわかる中国語しか話していないのだ。もっとうまくなっていつか「中国語が上手ですね」と言われなくなろうと決心しました。

さて時は流れて、私の年齢や職業のせいもあり、今は昔ほどは「上手ですね」は言われなくなりましたが、残念ながら皆無ではありません。中国語やはり未だに私にとって外国語です。

課文にあるように

你学了几年了？

N ǐ xuéle j ǐ nián le?

（あなたは何年勉強していますか）

と聞かれると、答えに詰まります。正直に答えると驚かれてしまうからです。私の感覚では18歳で大学に合格してから今までずっと学習中ですから。私の中国語は木に竹を接いだようなもので、私は中国語を教える教員であると同時に、一生中国語を学ぶ学生なのです。

活到老学到老

xué dào l ǎ o huó dào l ǎ o

（生きて年をとる、学んで年をとる、一生勉強）

#“活”は「生きる」という意味。

私は中国人の先生のように中国語は使えませんが、皆さんより先に中国語という門をくぐり、中国語という道で迷い、転び、また起き上がって歩いています。そこから得たものをこのポッドキャスト教材を通じて後から来る皆さんにお伝えできればと願っています。

このポッドキャスト教材をお使いの方はどんな方がいらっしゃるのでしょうか？

もし中学生・高校生がいるのなら、“后生可畏”hòu shēng kě wèi（後生畏るべし、「こうせいおそるべし」と読みます。意味がわからなかったら国語辞典を引いてみてください）です。がんばってくださいね。ただ日本語の能力を高めることもお忘れなく。外国語である中国語の語彙力が母語である日本語の語彙力を超えることはありえないので、日本語の能力が低いとそれだけ中国語の伸びしろが小さくなってしまいます。

大学生の皆さん、皆さんは今外国語を学ぶための“黄金季节”huángjīn jìjié（黄金期）にいます。大学生くらいになると大人の母語としての日本語がほぼ完成していて、なお且つ十分に若く記憶力や耳も良いです。時間もあります。大学の時にがんばれば外国語を一つマスターすることは可能です。ぜひこの恵まれた時間を有効に使ってください。

働いておられる方、主婦&主夫の方、学生時代と違って自分のためだけの時間を作るのがさぞかしたいへんでしょう。“一寸光阴一寸金”yí cùn guāngyīn yí cùn jīn（一寸の光陰は一寸の金に等しい、時は金なり）という言葉をもとに知っておられることと思います。学生さんに比べれば時間の面では不利ですが、その分は集中力でカバーです。そしてちょっとした隙間の時間を有効に活用していただければと思います。そのためにこのポッドキャスト教材がお役に立てばうれしいです。1回分で2分弱ですから。

『大阪府立大学中国語ポッドキャスト旅行会話編』については[こちら](#)へ。

リタイアされた方、記憶力や耳の良さという点では若い人に比べてハンディがあるかもしれませんが、その分知識や経験が豊富で、物事と物事を結びつける力は若い人よりあるのではないのでしょうか。中国語には“举一反三”jǔ yī fǎ n sān（四角の一つの角のことを言えば、他の三つの角のことを類推してわかる、一つのことから類推して多くのことを知る）という成語があります。こういう類推能力は経験を積み重ねれば伸びていきます。母語の日本語だってわからない言葉にぶつかることはあります。ましてや中国語は外国語です。そんな時にこの能力は大いに力を発揮すると思います。

ということで、言いたいことは、
大家一起学中文！

Dàjiā yìqǐ xué Zhōngwén!

（みんないっしょに中国語を勉強しましょう！）

[PDF教材を見る](#)

[本文の音声を聞く](#)

第30回補足：使役と受け身

第30回では使役の表現が出てきました。

使役は以下のような構文になります（詳しくはプリントをご覧ください）。

A+“叫”jiào+B+動作行為（AはBに～させる）

A+“让”ràng+B+動作行為（AはBに～させる）

（例）公司叫我去美国出差。

Gōngsī jiào wǒ qù Měiguó chūchāi.

（会社は私にアメリカに出張に行かせる→会社の命令でアメリカに出張する）

（例）公司让我去美国出差。

Gōngsī ràng wǒ qù Měiguó chūchāi.

（会社は私にアメリカに出張に行かせる→会社の命令でアメリカに出張する）

実はこの“叫”と“让”、受け身の構文にも使うのです。

但し、受け身の構文はこのポッドキャスト教材『[大阪府立大学中国語ポッドキャスト旅行会話編](#)』には出てきませんでした。なるべく初級文法の項目を網羅するように努力したのですが、この教材は場面優先のため、入れられなかったものがいくつかあるのです。そのうちの一つです。

A+“叫”jiào+B+動作行為（AはBに～される）

A+“让”ràng+B+動作行為（AはBに～される）

（例）电脑叫我弄坏了。

Diànbǎo jiào wǒ nòng huài le.

（パソコンは私に壊されました→私のせいでパソコンが壊れました）

（例）电脑让我弄坏了。

Diànbǎo ràng wǒ nòng huài le.

（パソコンは私に壊されました→私のせいでパソコンが壊れました）

使役と受け身、“叫”と“让”という同じ単語を使っても、上の例文を見ていただければわかるように使役と受け身が紛れることは普通はありません。

なお、受け身専用の言い方もあります。“被”bèiは受け身専用です。

（例）电脑被我弄坏了。

Diànbǎo bèi wǒ nòng huài le.

（パソコンは私に壊されました→私のせいでパソコンが壊れました）

“叫”と“让”による受け身の構文は誰がやったかという部分が必ず必要ですが、“被”bèiは誰がやったかという部分を省略することができます。

（例）电脑被弄坏了。

Diànbǎo bèi nòng huài le.

（パソコンが壊されました）

[PDF教材を見る](#)

[本文の音声を聞く](#)